

日程	平成 22 年 2 月 22 日 15 : 30 ~ 16 : 00
説明会場	高山グリーンホテル
担当者	高山市 農政部長 西田氏 高山市 農政部農務課 田中氏
バイオマス利活用取組み概要	森林資源が豊富な高山市においてバイオマスタウン構想を現在策定中である。

1. 説明内容

高山市におけるバイオマス利活用の現状

・ 廃棄物系バイオマス

廃棄物系バイオマスは、賦存量の多くを家畜排せつ物が占めており、現状でも堆肥などへの利用により 100%の利活用が達成されている。家畜排せつ物は非常に量が多いため、今後はメタン発酵などエネルギー化の利用も検討している。

食品廃棄物や廃食用油の現状の利用率はそれぞれ 12%、3%であり、いずれも利用率の向上が望まれる。市として、家庭用の生ごみ堆肥化

装置の購入に際して、2 分の 1 の補助を出す措置を講じている。廃食用油については、地元の婦人会で回収されたものを BDF 化し、公用車 4 台の燃料として使用している。ただし、冬場は燃料が凍結してしまうために使用できないことが問題点として挙げられている。

下水汚泥は、焼却灰をレンガの原料として利用されたり、肥料に利用されたりしている。

・ 未利用系バイオマス

未利用系バイオマスについては、林地残材が占める割合が最も大きい。現在は主に建築用材に利用されているが、バイオマスタウン構想では木質固形燃料化を積極的に進めていきたい。野菜残さや果樹剪定枝の現在の利用率は 0%であるが、今後は堆肥化や燃料化、敷料としての利用を進めていく予定である。



(写真 1) 高山市農政部長の挨拶

高山市バイオマスタウン構想のポイント

高山市バイオマスタウン構想では、廃棄物系バイオマスは91%、未利用系バイオマスは17%である現在の利用率を、それぞれ92%、26%に引き上げることを目標としている。

前述の現状を踏まえ、高山市バイオマスタウン構想では以下のポイントを柱とし、利活用の促進を支援する。

- ① 林地残材の有効活用
- ② 家畜排せつ物の有効活用
- ③ BDFの高品質化とハンドソープの普及

①については、林地残材の賦存量が最も多いことから、さらなる利用率の向上が求められる。②は前述の通り、新たな利活用方法としてエネルギー化を検討している。③については、現在でも県外の事業者により廃食用油からハンドソープへの商品化が行われているが、価格が高いため販売状況は芳しくないとのことである。今後、普及拡大のためには、質の向上とともに価格の低減が課題となる。



(写真2) 高山市バイオマスタウン
担当者による説明

木質バイオマス関係の支援制度

林地残材の利活用を推進するために、高山市では間伐材の搬出費用の助成と、ペレット燃料やペレットストーブの購入補助を行っている。間伐材の搬出においては、独自で採算性を確保することが難しいため、収集運搬に要する経費を、1m³あたり1,500円を上限として助成を行っている。また、ペレット燃料は10kgあたり100円の助成、ペレットストーブや薪ストーブの購入には3分の1の補助を行っている。

2. 所感

高山市バイオマスタウン構想の柱としている3項目には、地域の特色が反映されていると感じた。BDFの製造にあたり、寒冷な地域では特に凍結凝固が問題となることが改めて認識した。また、高山市に豊富に存在する木質バイオマス、市からの補助により積極的に地域内での利活用を促進していくことが分かった。市や関係事業者の連携により、今後ますます利活用が盛んに行われ、地域の活性化に繋がれば素晴らしいと思った。